

令和8年度
シラバス

教科・科目	地理歴史・日本史探究	単位数	3
-------	------------	-----	---

学年・クラス	3学年（ 必修 ・選択）	担当者	森下 貴秋
使用教科書	山川出版社 高校日本史		
使用副教材	山川出版社 詳説日本史図録第10版、山川出版社 高校日本史ノート		

目 標

日本史探究では社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通じて、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

授業の内容・進め方

内 容：古代から近現代までの通史を学び、これからの日本と世界の展開について、課題意識を持って学習します。
 進め方：教科書と資料集を中心に展開します。興味を持ったことについて調べ、自分自身の考えをまとめて発表することもあります。家庭での予習・復習が必要です。
 考 査：授業で学習したことの理解度、思考力・判断力、表現力・資料活用の技術が試されます。
 観 点：興味・関心をもって意欲的に授業参加しているか、内容をしっかり理解して自分のものになっているか、知識を活用した思考・判断で表現できるかを観ます。

評価規準（観点別達成目標・評価項目）

評価の観点	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
近現代の	我国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技術を身につけるようにする。	我国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し、解決を視野に入れて構想したりする力を養う。	我国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。
評価の割合	1	1	1

	評価の観点	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
評 価 項 目	定期考査（年3回）	◎	○	△
	小テスト（適宜実施）	◎	△	○
	レポート（適宜実施）	○	◎	◎
	課題提出（長期休み明け及び適宜実施）	○	△	◎
	授業への参加（通年）	△	○	◎

- ・ **観点別評価** 3つの 観点別に各評価項目の達成率でA・B・Cを決定する。
 A：十分満足できる B：おおむね満足できる C：努力を要する
- ・ **評価・評定** 観点別評価から総合的に成績（評価・評定）を決定する。

年間指導計画及び中単元別評価基準

学期	月	単元	学習内容	評価規準			
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
前期	4	第1章 日本文化のあけぼの	1 文化のはじまり 2 農耕の開始	日本列島における変化を自然環境の変化や大陸からの影響に着目し理解している。 水稲耕作や金属器の伝来が日本列島の社会に与えた影響を理解している。	遺物や遺構など考古学上の知見から、旧石器・縄文文化社会について考察し表現している。 クニの形成から小国の連合について資料から考察した結果について、根拠を示し表現している。	黎明期の日本列島の歴史的環境・文化形成について考察することを通じて旧石器・縄文文化の特色を明らかにしようとしている。 農耕社会の特色や社会の変化について考察し、明らかにしようとしている。	
		第2章 古墳とヤマト政権	1 古墳文化の展開 2 飛鳥の朝廷	渡来人のもたらしたものが現在に日本文化の基礎にあたることを理解している。	ヤマト政権の発展や古墳文化の特色について多面的・多角的に考察し表現している。	小国家の形成と連合について考察することを通じ、展開とつながりを見いだそうとしている。	
		第3章 律令国家の形成	1 律令国家への道 2 平城京の時代 3 律令国家の文化 4 律令国家の変容	中国王朝との関係や政治への影響、律令制の形成を中心に、大化の改新以降の政治過程を理解している。	律令国家について、政治や地方の動向もふまえ、多角的に考察し、表現している。	中国王朝との関係や政治への影響などに着目し、律令体制の成立過程とのつながりを明らかにしようとしている。	
		第4章 貴族政治の展開	1 摂関政治 2 国風文化 3 荘園の発達と 武士団	藤原北家の発展過程や地方支配の変化を資料から読みとり、律令体制の変様の観点から、摂関政治を理解している。	地方支配の変化に着目し、奈良時代や平安時代と比較しながら、摂関政治の特質とその後の展開について考察する。	東南アジア情勢の変化が日本社会に与えた影響を考察することを通じ、摂関政治期の社会の特色を明らかにしようとしている。	
	前期中間考査						
	7	第5章 院政と武士の進出	1 院政のはじまり 2 院政と平氏政権	古代から中世の国家・社会の変様を理解している。	古代から中世の時代の転換を根拠として示し、表現している。	中世社会の特色について多角的・多面的に考察しようとしている。	
		第6章 武家政権の成立	1 鎌倉幕府の成立 2 モンゴル来襲 3 鎌倉文化	源平争乱から執権確率までの歴史過程、封建制度成立について理解している。	幕府と朝廷の2次元の支配構造の特色と土地支配に与えた影響について表現している。	鎌倉幕府成立の過程や封建制度の形成、公家関係の変化に着目し主体的に探究しようとしている。	
		第7章 武家社会の成長	1 室町幕府の成立 2 下剋上社会 3 室町文化 4 戦国の動乱	鎌倉幕府滅亡後の政治権力の推移と武家の関係、日明貿易の展開、アイヌ文化の形成について理解している。	南北朝の動乱と日本列島の地域社会の変質、東アジアの国際情勢と影響について多面的・多角的に考察しようとしている。	武家政権の変容や東アジアの国際情勢の変化に着目し、前後のつながりから政治や社会の特質を見いだそうとしている。	
	前期期末考査						
	9	第8章 近世の幕明け	1 天下人の登場 2 豊臣政権と文化	アジア各地やヨーロッパ諸国に関する資料から情報を読み、織豊政権の特色や貿易・対外関係を理解している。	織豊政権の制作目的やヨーロッパ諸国の進出がアジアに与えた影響について理解している。	時代の転換に着目し、中世から近代の国家、社会の変化について時代を通観する問いを表現しようとしている。	

	月	単元	学習内容	評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後 期	10	第9章 幕藩体制の成立と展開	1 江戸幕府の成立 2 江戸初期外交と文化 3 幕政の安定 4 経済の発展 5 元禄文化	江戸幕府が法や制度の整備のもとで、経済的にも軍事的にも圧倒的な力で全国を支配し、体制を確立したことについて理解している。また身分制のしくみや村落、都市支配の構造について理解している。	織豊政権下における社会のしくみと幕府の体制下を比較・考察し、その特質について多面的・多角的に考察し、表現している。 17世紀の文化の特色について諸資料から考察した結果をまとめることができる。	織豊政権下における社会のしくみと幕府の体制下を比較・考察し、その特質について多面的・多角的に考察し、表現している。 17世紀の文化の特色について、諸資料から考察した結果をまとめることができる。
	11	第10章 幕府の体制の動揺	1 幕政改革・文化 2 江戸幕府の衰退 3 化政文化の形成	幕府の財政が悪化する中で実施された享保の改革や、田沼意次の政策を理解している。	商品作物の栽培、経済の変化による米作を基盤とする幕府の体制が、動揺する過程を考察し、表現している。	社会や経済のしくみの変化や幕府の政策の変化について、課題を見出し主体的に探究しようとしている。
	12	第12章 近代国家の成立	1 明治維新 2 立憲国家の成立	明治政府による中央集権化の政策と、士族反乱の終焉・欧米・アジア地域との国際関係・文明開化について理解している。	諸制度の改革が地域社会にもたらした変化、条役の相互比較・思想や文化の影響について多面的・多角的に考察しようとしている。	明治維新や文明開化の風潮が展開するなかで生じた様々な課題について主体的に探究し、答えを導こうとしている。
	第14章 近代の産業と生活	1 近代産業と発展 2 近代の文化 3 市民生活の変容と大衆文化	日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家の基盤が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して理解している。	地域社会の変化をふまえて、産業全体変化がもたらされたことや、労働問題の発生について多面的・多角的に考察しようとしている。	産業の発展とそれによって発生した社会問題への対応について、課題を見出し主体的に探究しようとしている。	
						第15章 恐慌と第2次世界大戦
	第16章 現代の世界と日本	1 占領下の改革と主権の回復 2 55年体制と高度経済成長 3 現代の情勢	第2次大戦前後の政治や社会の類似などに着目して戦後の改革と日本国憲法制定に関わる資料を読みとり占領政策と諸改革について理解しようとしている。	地域社会の変化形の変容にも留意しながら占領前後の社会や思想や文化などを比較・考察し、その結果を明確にして表現している。	連合国による日本占領機構の特色やその目的を考察することを通して、戦後の改革がどのような社会の枠組を形成したのか、現代日本との関係性を踏まえながら主体的に探究しようとしている。	

